

沖永良部島イクサイヨー洞穴遺跡第5次発掘調査速報

A Prompt Report of the Fifth Excavation at Ikusaiyo Cave Site, Okinoerabu Island

竹中 正巳¹⁾, 大西 智和²⁾, 鐘ヶ江 賢二³⁾, 中村 直子⁴⁾, 寒川 朋枝⁴⁾, 仲田 眞一郎⁵⁾

Masami Takenaka, Tomokazu Onishi, Kenji Kanegae, Naoko Nakamura, Tomoe Sangawa, Shinichiro Nakata

¹⁾ 鹿児島女子短期大学, ²⁾ 鹿児島国際大学国際文化学部, ³⁾ 鹿児島国際大学ミュージアム,

⁴⁾ 鹿児島大学埋蔵文化財調査センター, ⁵⁾ 鹿児島県知名町教育委員会

本稿は鹿児島県大島郡知名町イクサイヨー洞穴遺跡の第5次発掘調査の調査成果速報である。海食崖側洞口調査区の石棺内に仰臥伸展葬の1体の人骨（男性・壮年）が埋葬されていることがわかった。この人骨は右手首に貝輪を着装している。石棺内でサンゴ石や貝小玉および仲原式の土器片を検出した。また、新たに3つのトレンチ（4・5・6トレンチ）を設定し掘り下げを開始し、5トレンチからは人骨が出土し始めている。余多川側洞口調査区の2023-1号墓の再葬人骨を墓中の土器片とともに今回の調査で取り上げた。

Keywords : Ikusaiyo cave site, human skeletal remains, stone coffin, shell bracelet, reburial, Okinoerabu island

キーワード : イクサイヨー洞穴遺跡, 古人骨, 石棺, 再葬, 沖永良部島

1. はじめに

イクサイヨー洞穴遺跡は、鹿児島県大島郡知名町大字余多字石嘉喜に所在する。沖永良部島の中央部、東側海岸にある（図1・2・3）。1984年に地元の大山倭氏により発見された（知名町教育委員会、1986）。

イクサイヨー洞穴は北西から北東方向に貫通している石灰岩洞穴である。洞口は北西側と南東側にある。北西側の洞口は余多川下流の川岸にあり、南東側の洞口は太平洋に面する海食崖に開口している（図4・5）。

われわれは沖永良部島の先史時代人骨の新たな発見を目指し、2021年度から発掘調査に取りかかった（竹中ほか、2022）。2021年度は、2021年12月24日から30日、2022年1月22・23日、2月19・20日の合計10日間、第1次発掘調査を行った。イクサイヨー洞穴遺跡の南東側洞口開口部の東西の高まりに、それぞれ1つずつトレンチを設定した。西側の高まりに、0.7m × 3m の1トレンチを設定した。東側の高まりには、1m × 1m の2トレンチを設定した。

1トレンチを掘り下げると、小穴奥のトレンチ際の表土直下から鏡が出土した。表土層からは、多くはないが、人骨が検出された。表土から10～20cm 下に7～8mm程度の巻貝がほぼ1列に並ぶ層があり、その10cm 程度下から人骨や土器片が出土した。鏡の直径は約8cm、重量は53g である。貝層を挟んで、上下に人骨が出土している。上の人骨や鏡は、表土に認められる風葬骨との関連が考えられる。また、下の人骨や土器は、上の人骨よりも古い可能性がある。下の人骨の中には、火を受けた骨もある。

2トレンチ（1m × 1m）は、東側の高まりに、のトレンチを設定した。表土上にある石灰岩の隙間には、土器や人骨片が露出していた。徐々に掘り下げていくと、人骨片や土器片、貝輪などが多数出土した。表土から約15cm 掘り下げた今回の発掘調査の最下層からは、人骨片や土器片、貝輪、タケノコ貝製品などが多数出土した。

2022年度は、第2次調査を2022年4月28日から5月5日までの8日間、第3次調査を12月23日から30日までと2023年3月11・12・27日の合計11日間実施した（竹中ほか、2023）。両調査とも、1次調査で掘り始めた2つのトレンチの掘り下げを継続した。1トレンチを掘り下げると、第2次調査では、下層の全面から人骨や土器片が出土した。人骨は東側に多い。焼けた人骨も含まれる。出土した土器は仲原式土器の破片ばかりであった。第3次調査では、さらに掘り下げを進めた所、焼土層（炉跡）が少なくとも5箇所は確認された。掘り下げ最下面からは人骨片や土器片が出土した。面縄前庭式土器の土器片であった。

2トレンチは、石灰岩を外しながら掘り進めると、第2次調査では、人骨片、貝製品（貝輪など）が検出された。人骨片の中には焼骨片もある。出土した土器片は仲原式である。第2次調査の終盤で、石棺の可能性のある石組みが検出された。南側にトレンチを拡張（1m × 1m）し、掘り下げを進めた。5月の調査終了時点では、石棺かどうか判断はできなかった。

第3次調査では、さらに石灰岩を外しながら、掘り下げると、蓋石の隙間から右前腕が検出された。蓋石下には頭蓋が遺存していることも確認できた。人骨の遺存状況からも石棺の可能性が高いと考えられた。

2023年度は、第4次調査として、合計29日間の発掘調査を行った。内訳は、2023年8月14～25日の12日間、10月27～29日の3日間、11月8～12日の5日間、2024年1月8～12日の5日間および3月1～3日、18日の4日間である（竹中ほか、2024；竹中ほか、2024）。

8月の調査では、1トレンチでは、4-2層下部から、人骨片および室川下層式の可能性がある土器片と貝製品が出土した。5層からは、炭化物が検出されるのみで、人骨片は出土しない。現在の地表面から約260cm掘り下げたところ、落下した石灰岩に阻まれ、掘れなくなったため、調査を終了し、トレンチを埋め戻した。

2トレンチは東側にトレンチを拡張し、石灰岩を外しながら掘り進めると、人骨片、貝製品が検出できた。石棺の東端も検出された。8月の調査で、石棺上部の全体像が明らかになった。

さらに、8月の調査では、新たに3トレンチを設定し、掘り下げた。1層～4層で、人骨片（焼骨片も含まれる）が出土した。2層から仲原式土器片が出土した。1トレンチ同様、焼土層が2層から検出された。面縄前庭式土器片（口縁部）が4層下面から出土した。1～4層までの層序関係は第1トレンチと同様である。余多川側洞穴開口部の精査も行ったところ、岩裂にある再葬墓（2023-1号墓）を発見した。複数の頭蓋や四肢長骨が岩裂に押し込まれた状態で発見された。脳頭蓋の中には土が詰まっている。各骨は解剖学的位置関係を保っていない。岩裂周囲では他にも古人骨片や土器片が表採できた。

10月の調査では、余多川側洞口入り口部に新たに土器片や古人骨片、夜光貝加工品発見した。また、石灰岩裂中の2023-1号墓の上にも別の再葬墓（2023-2号墓）があることがわかったが、詳細な確認はできなかった。

11月の調査では、2023-2号墓の現況を確認するために洞穴上部を踏査し、状況を確認した。2023-2号墓は大石の下に多数の人骨が納められている。大石の上や周囲の石灰岩のくぼみなどに人骨片が認められる。土器片も確認できた。また、大石の脇に人骨やタケノコ貝製品を置き、人為的に石灰岩の上に積んだ埋葬施設も確認され。

そして、2024年1月8～12日の5日間、2023-1号墓および2023-2号墓の写真撮影を行った。2024年3月1～3日および18日には、2023-2号墓の脇のタケノコ貝製品と人骨の記録を取り、取り上げた。

第5次調査は2024年4月26日～5月6日の11日間行われた。海食崖側の調査区では、石棺内の調査に加え、新たに4、5、6トレンチを設定し掘り下げを開始した。余多川側洞穴開口部の調査区も、2023-1、2号墓について調査を行った。本稿は、第5次調査の調査成果の速報である。

2. 調査の成果

第5次調査（2024年4月26日～5月6日）では、新たに3つのトレンチ（4・5・6トレ）を設定し掘り下げを開始した。5トレンチからは人骨が出土し始めている（図6）。また、2トレンチの石棺（海食崖側洞口の調査区）に仰臥伸展葬の1体の人骨（男性・壮年）が埋葬されていることがわかった（図7）。この人骨は右手首に貝輪を着装している。石棺内でサンゴ石や貝小玉および仲原式の土器片を検出した。

余多川側洞口の2023-1号墓の再葬人骨を墓中の土器片とともに今回取り上げた（図8）。脳頭蓋や四肢骨中には土が詰まっており、各骨は解剖学的位置関係を保っていない。出土人骨のC14年代測定を行った結果、紀元前15-紀元前14世紀（2σ暦年較正年代）の結果が得られた。2023-2号墓については、写真撮影や大石下の人骨の遺存状況の記録を開始した（図9）。

トレンチや墓から検出した人骨や、出土遺物の年代を明らかにしながら、今後も発掘調査を継続していく予定である。

謝辞

発掘調査にあたり、知名町教育委員会の皆様には様々な便宜を図っていただいた。本発掘調査はMEXT 科研費JP23H04842によって行われた。

引用文献

知名町教育委員会（1986）知名町埋蔵文化財分布調査概報－昭和60年度－。知名町文化財報告書（5）。p15

竹中正巳・大西智和・鐘ヶ江賢二・宮城幸也（2022）沖永良部島イクサイヨー洞穴遺跡発掘調査速報。鹿児島国際大学ミュージアム調査研究報告 19:13-16。

竹中正巳・大西智和・鐘ヶ江賢二・宮城幸也（2023）沖永良部島イクサイヨー洞穴遺跡2021年度発掘調査速報。鹿児島国際大学ミュージアム調査研究報告、20：19-22。

竹中正巳・大西智和・鐘ヶ江賢二・芝原万季・宮城幸也・仲田眞一郎（2024）沖永良部島イクサイヨー洞穴遺跡第4 次発掘調査速報.
鹿児島女子短期大学紀要, 61：5-13
竹中正巳・大西智和・鐘ヶ江賢二・芝原万季・宮城幸也・仲田眞一郎（2024）沖永良部島イクサイヨー洞穴遺跡第4 次発掘調査速報Ⅱ.
鹿児島国際大学ミュージアム調査研究報告, 21：21-26.

（2024年11月25日 受領／2024年12月12日 受理）



図1 沖永良部島の位置



図2 イクサイヨー洞穴遺跡の位置



図3 イクサイヨー洞穴遺跡（太平洋側から空撮）



図4 海食崖側洞穴開口部（海食崖側から空撮）



図5 余多川側の洞穴開口部



図6 5トレンチで出土し始めた人骨

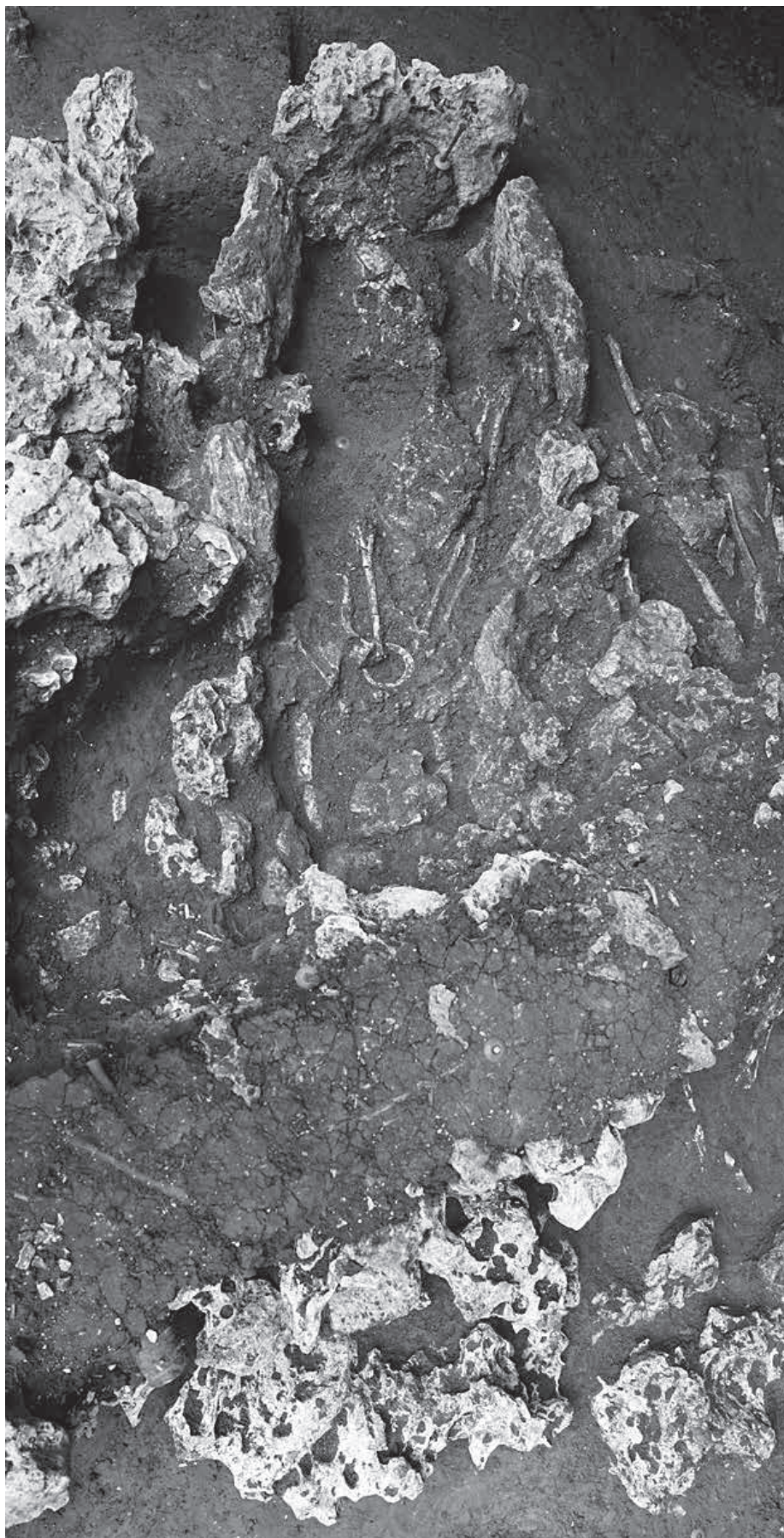


図7 石棺墓に埋葬された人骨



図8 イクサイヨー洞穴遺跡2023-1号墓



図9 イクサイヨー洞穴遺跡2023-2号墓（中央の大石の下や周辺に再葬人骨）